

新エステル型合成ペニシリン Pivampicillin の 産婦人科における使用経験

播 磨 昌 幸・田 中 新 平・山 田 文 夫

大阪市立大学医学部産科婦人科学教室

(主任：須川侑教授)

緒 言

Pivampicillin は 1969年レオ社で開発された抗生物質で、Ampicillin に Pivaloyloxymethyl ester を加えた ester であるが、生体内で分解され Ampicillin となり、その抗菌作用を発揮するとされている。ことに本剤はエステル型とされたため吸収が良好で、同一量の投与によって Ampicillin の 2～3 倍高い血中濃度がえられる特長があると称せられている¹⁻⁴⁾。

我々は、今回本剤を婦人科領域の若干疾患に使用し、認むべき成績をえたので少数例ながらここに報告する。

投与方法および検討方法

当科を訪れた尿路感染症、性管感染症のうち菌種を確認し、ABPC に感受性を認めたものを対象とした。

而して Pivampicillin (125mg カプセル) 2 cap. を 1 日 4 回 (計 1 日量 1,000mg) 7 日ないし 14 日投与を原則とし、投与終了後、再度細菌学的検討を行ない、その効果を判定した。

臨 床 成 績

その成績を一括して表示すると、Table 1 のごとくである。すなわち、膀胱炎の 9 例では *Staphylococcus* (3 例) *E. coli* (5 例)、*Corynebact.* (1 例) をみとめ、それぞれ ABPC に感受性を示した。1 例は 2 日目に副作用のため内服を拒否したが、他の 8 例は原則として 7 日間使用し、7 例において細菌学的に治癒を認めた。また、頸管膣炎、外陰膣炎などの 5 例では *Staphylococcus* (3 例)、*Proteus mirabilis* などを見とめ、それぞれ ABPC に感受性を示した。7～14 日の本剤投与により全例治癒せしめえた。

また副作用に関しては全 14 例中、発疹 2 例、胃痛 1 例、全身掻痒 1 例、全身倦怠 1 例をみたほか、さして重篤な副作用は何らみとめられなかった。上記諸症状も比較的軽度で、神経質のため全身倦怠に耐えず服薬を途中で拒否した 1 例をのぞき、全例投薬を継続しえた。なお本検討例のいずれもが外来通院患者であったため、肝、腎機能、血液などに及ぼす影響などについて詳細な臨床

Table 1 Clinical results of pivampicillin

Case	Age	Diagnosis	Organisms	ABPC sensitivity	Period (days)	Effect	Side effect
1	20	Cystitis	<i>Staphylococcus</i>	卅	11	+	—
2	38	"	"	卅	7	+	—
3	54	"	"	+	7	—	Exanthem
4	46	"	<i>E. coli</i>	卅	7	+	—
5	38	"	"	+	2	?	Languor
6	34	"	"	卅	7	+	—
7	36	"	"	卅	7	+	—
8	21	"	"	卅	7	+	—
9	21	"	<i>Corynebacterium</i>	卅	7	+	—
10	38	Cervicitis Vulvocolitis	<i>Enterococcus</i>	卅	10	+	Pruritus
11	44	"	<i>Proteus mirabilis</i>	卅	14	+	—
12	35	"	<i>Staphylococcus</i>	卅	7	+	—
13	32	"	"	卅	7	+	Exanthema
14	25	"	"	+	10	+	Gastralgia

検査成績をうることはできなかった。効果を総括すると14例中、服薬中断の1例をのぞき、13例中12例に有効であった。

総括ならびに結論

Pivampicillin は Ampicillin をエステル化し、比較的に高い血中濃度をうるよう工夫された新しい合成 Penicillin であるが、本剤を膀胱炎、頸管—膣—外陰炎などに使用し、14例中服薬中止の1例を除く13例のうち12例に細菌学的検索により有効であった。有効であった菌は *E. coli*, *Staphylococcus*, *Corynebact.*, *Proteus mirabilis* などである。

副作用は5例に認めたが、さして重篤ではなく、1例神経質な症例をのぞいて服薬を継続せしめた。

以上の治験より、Pivampicillin は産婦人科臨床上、好都合の薬剤と考える。

本稿の要旨は第21回日本化学療法学会で誌上発表した。終りに須川 信教授の御校閲を深謝いたします。

文 献

- 1) DAEHNE, VON W.; E. FREDERIKSEN, E. GUNDERSEN, F. LUND, P. MØRCH, H. J. PETERSEN, K. ROHOLT, L. TYBRING & W. O. GODTFREDSEN: Acyloxymethyl esters of ampicillin. J. Med. Chem. 13: 607~612, 1970
- 2) JORDAN, M. C.; J. B. DE MAINE & W. M. M. KIRBY: Clinical pharmacology of pivampicillin as compared with ampicillin. Antimicrob. Agents & Chemother.: 438~441, 1970
- 3) FOLTZ, E. L.; J. W. WEST, I. H. BRESLOW & H. WALLICK: Clinical pharmacology of pivampicillin. *ibid.*: 442~454, 1970
- 4) 第21回日本化学療法学会総会 シンポジウム Pivampicillin 要旨

CLINICAL EVALUATION OF PIVAMPICILLIN, A NEW SYNTHETIC PENICILLIN, IN GYNECOLOGICAL FIELD

MASAYUKI HARIMA, SINPEI TANAKA and FUMIO YAMADA

Department of Obstetrics and Gynecology, Osaka City University, Medical School

(Director: Prof. TADASHI SUGAWA)

Pivampicillin, a new synthetic penicillin, was used for gynecological infections.

The clinical results were effective in 8 cases of cystitis and 5 cases of cervico-vagino-vulvitis, while ineffective only in 1 cases of *staphylococcal* cystitis.

Side effects were seen in 5 cases, though they were all mild and slight.